

金山病院で行っている乳がん治療 広報げろ 2016.8

金山病院で行っている乳がん治療

乳がんは、家庭的にも社会的にも重要な役目を果たしている四十代から五十代の女性に多いがんです。乳がんの治療は手術ばかりでなく、抗がん剤治療や内分泌療法などが必要となります。また、乳がんは他のがんと違って十年後、二十年後でも再発の可能性があります長期の経過観察が必要となっています。そのため、金山病院では身近な病院として乳がんの標準的な治療を行い地域の皆さんの生活を支援しています。そこで今回は金山病院が行っている乳がんの標準治療についてお話します。標準治療というのは高い効果が期待でき、安全性も確認された、現時点での最善の治療法です。

現在の乳がんの標準的な治療は手術です。乳房を全部取る乳房切除術と部分的に取る乳房温存手術があります。手術目的は、がんを取り除くことです。部分的切除でもがんを取り除くことができれば乳房温存を選択できます。がんを取り除くためには乳房切除が必要なこともあります。がんの広がりによってどちらかを選択します。全国的には六割の患者が温存を選択していますが金山病院では四割となっています。温存乳房にはわずかながら再発があること、放射線治療が必要であることなど、説明を納得したうえで本人に決めていただきます。手術に際しては腋の下のリンパ節の一部または全部を切除し転移がないかを調べます。

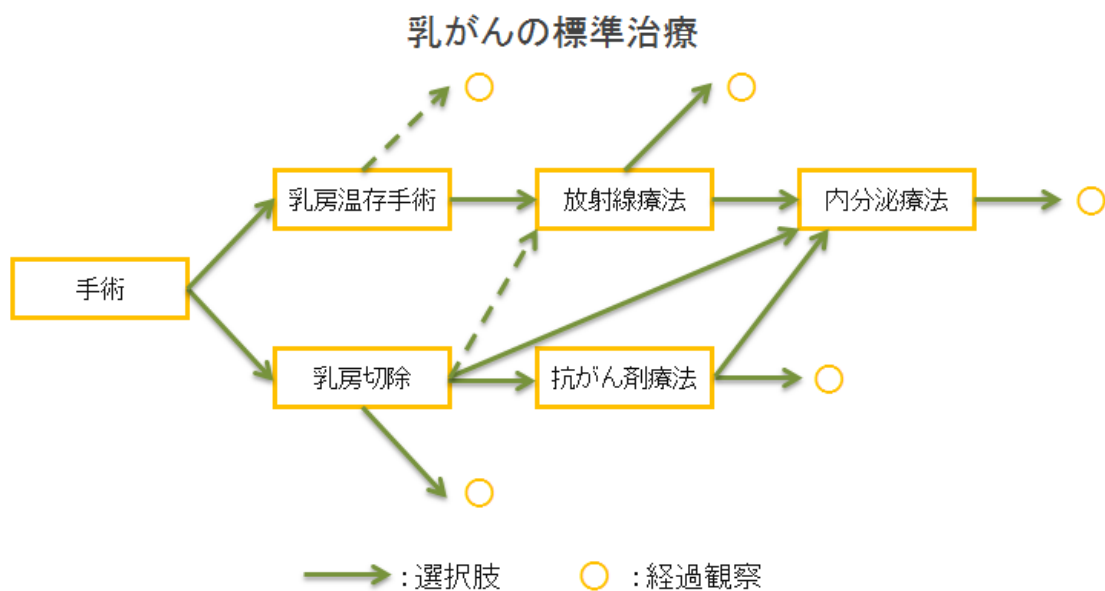
温存した乳房には再発予防のために放射線治療を行います。二十五回（一週間に五日、五週間）放射線治療施設のある美濃加茂市か高山市に通院していただきます。日焼けに似た症状以外重大な副作用はありません。残念ながら当地域では通院が困難なために温存をあきらめる方もおられます。

抗がん剤治療を行うかどうかは、がんの進行程度、病理学的悪性度によって決まっています。現在再発予防のためには、三週間に一回点滴注射で薬剤を組み合わせて五から六回、薬剤によっては一年間行います。予防的治療なので無理をせず回数や薬剤量を減らしたりして副作用を抑えます。脱毛は避けられないのですが髪の毛は治療が終了すれば再生します。

乳がんの六割は女性ホルモンの働きによって分裂、増殖します。この性質は病理検査で判定し、陽性の場合に閉経前では女性ホルモンの働きを抑える（更年期の状態を作り出す）薬、閉経後は脂肪組織などで女性ホルモンが作られるのを抑える薬を使います。注射や飲み薬があり長期にわたって使用します。

残念ながら進行した乳がん、転移再発した乳がんには抗がん剤治療や放射線療法などを行い、がんを進行させない、がんと共存しながら生活を維持していくことが基本になります。

以上のことから、がんの治療ができる身近な病院として金山病院の機能を維持していくことが重要と考えています。



下呂市立金山病院 顧問

乳腺外来 古田智彦